

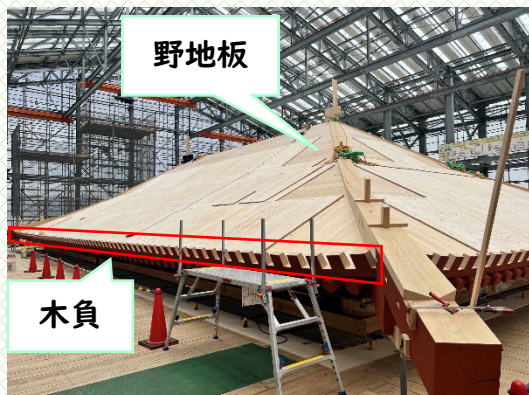


奈良時代を今に感じる 伝統技能の継承現場

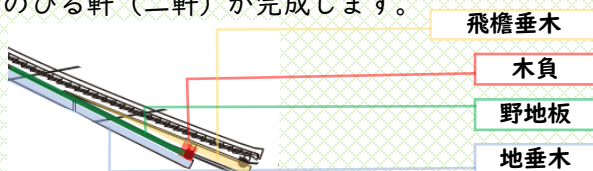
麦秋至（むぎのときいたる）
秋に種をまき、冬を越した小麦（冬小麦）が収穫期を迎える初夏の頃のことです。



今、知りたい～現場進捗～



現在、東楼の屋根工事では、瓦葺き（ぶき）の下地となる野地板（のじいた）を、地垂木（じたるき）の上に設置する作業を行っています。また、地垂木の先には櫛の歯のような形をした横木の部材である木負（きおい）を設置しています。これから木負にはさらに飛檐（ひえん）垂木（たるき）が取り付け、二段階にのびる軒（二軒）が完成します。



さぁ行こう！～魅せる!現場～

日時：令和6年5月30日（木）午前13：30～
参加：32名

今回の見学会には奈良県建築士会の方々が参加されました！建築に関する知識が豊富な方々で、見学会中も多くの質問が飛び交いました！参加者からは、以下のような感想が寄せられました。

- ・職人さんの生の声が聴けたことが良かったです。納まりの話はなかなか聴けないので、大変勉強になりました。
- ・宮大工の技術や、それをまとめる技術がすばらしいと思いました！
- ・一般の建物と全く違った工法を目のあたりにして感動しました。

今回は職人の方々からも説明していただいたので、見学会はいつも以上に、盛り上がっていました！

職人の方々の紹介

平城宮跡の復原事業では、伝統的な工法が多く使われています。その技能を現代に受け継ぎ、事業を支える職人の方々を紹介したwebページがあります。是非、一度ご覧ください。

<https://www.kkr.mlit.go.jp/build/policy/other/ni-naite.html>

（職人の方々への質問タイム）



■現場見学ガイド ～魅せる！現場～
～2024年12月末※（終了時期未定）

■申込みサイト

<https://www.kkr.mlit.go.jp/kengaku/moushikomi/moushikomi.html>

見学申込み

京都宮繕事務所

